

自由に演奏できるのは
メンバーとの信頼感があるから

●「KAGERO III」はどのように作りましたか？

●リーダーの白水悠(b) 君が曲のモチーフを持ってきて、それをスタジオでメンバーと話し合いながらアレンジしていききました。今までのアルバム制作と同じやり方です。ただ、1stや2ndアルバムはライブ感も大事にしていたんですが、今回はそうではなく、より細かいところまで詰めて、「曲」を作る、という流れで制作していききました。

●ピアノ・アレンジはどうやって行うのですか？

●まず、曲ごとにどんなイメージにするか話し合いをします。自分の頭の中のイメージが合っているか何度もメンバーに確認して、イメージが固まったらそれに合わせてベースのルートにコードを乗せていく、という感じです。ダメ出しが出たら(笑)、メンバーのアイデアを聞いたたりしてまた作り直したり、いろいろ実験して作っていきますね。

●ピアノ・アレンジをするときに、何か意識していることはありますか？

●コードを出す楽器は私しかないの、ベース・ラインとサックスのメロディの間を埋める感覚で作っていきます。メロを邪魔するような無茶なバックイングをする曲もあれば、そうではなく、後から煽るときもありますね。ピアノが前に出てくるところでは現代音楽のボイスイングを押さえています(笑)。そういう不安定なコードを弾くときも、何も考えずに弾いているというわけではないんですよ。例えば「GAS」では、左手で「レミファソラ」の固まりを弾くことを基本にしています、そこから音を外さないように意識していま

す。ライブでは肘で弾いたりしていますが、そのときも「レミファソラ」を狙って叩いているんです。自分の中で気持ち良い音が見つかったら、そこからあまり離れないようにしています。でも、またすぐ変わっちゃうんですけどね。

●「a bird in the cage」の静かなセクションは、ジャズや現代音楽のコードではないですよね？

●これはいつもより音を抜いて、シンプルなトライアドを弾こうと意識しました。クラシック的な神聖な暗さを演出したくて、7thを付けないマイナーコードを弾いています。

●「DRILL LINER」はピアノのリフから始まりですが、菊池さんが出したアイデアなのですか？

●これはつば(s) 君の作った曲で、ピアノ・リフはメンバーに聴いてもらいながら私が作りました。ピアノから始めるということも話し合っていました。でも、これから演奏していけばいくほど、ほかにもっと気に入るリフが出てくるかもしれない、とも思っていますが(笑)。

●レコーディングは生ピアノですか？

●はい。スタインウェイのフル・コンサート・グランドです。「HYSTERIA」では初めてピアノを2つ重ねました。バックイングをしている自分と、空間を埋めている自分がいて、不思議な気持ちでしたが、描いていたサウンドが作れたと思います。レコーディングでしかできないこともやってみる、というのも今回のテーマでもありました。

●ライブで使っている機材は何ですか？

●カシオ Privia PX-3です。ミドルの音域がきれいに弾けて、音がよく抜けるので気に入っています。それから、ほかのメンバーの音量に負けてしまわないように、要所要所でブースターを使って音量を上げているんです。激しく踏み過ぎて

よく壊してしまうんですけどね(笑)。

●ライブ・アレンジもメンバーで話し合っているのですか？

●いえ、ライブでは決めごとはないんですが、その場によって自然に変わっていくことがあるんです。特に「GAS」は去年の4月からやっている、いろんな意味で自分の中でもなじんできたと思います。ほかの曲でもライブでは遊びの部分や進化が生まれたりしています。「KAGERO III」の曲たちもどんどんこねられてきているので、もっともっと自由に演奏していくと思います。

●ライブではアルバムの曲と全然違うものになったりするんですか？

●それもあります。誰かが面白いことを始めたら、みんながそこに乗っかっていくんです。お客さんに乗せられてパンク・ロックになったこともありますね。それはとても楽しかったです。カゲロウのメンバーは絶対に自分の演奏を聴いていて反応してくれるので、その優しさや遊び心に対して信頼と尊敬を感じています。

●今回のアルバム収録曲も、ライブでどうなるかはそのときにならないと分からないんですね。

●そうですね。「KAGERO III」はドラマー3人が4曲ずつ叩いているのも特徴的ですし、アルバムでしか聴けないカゲロウの「曲」がたくさん詰まっていますので、ぜひいろんな人に聴いてほしいと思います。全国ツアーも始まっているので、アルバムとライブ、それぞれ違う楽しみを体験してもらえればと思います。

Live
Information

-KAGERO III Release Tour
「HYSTERIC GAS」開催中!
詳しくはWebサイト(kagero.jp/)にて

菊池智恵子 直伝! カゲロウ・サウンドのボイスイングをマスター



菊池にカゲロウで披露している独特なボイスイングの方法を教わった。

本誌のために、「KAGERO III」収録曲「GAS」をモチーフにした3つの譜例を制作してもらったので、付録CDのお手本演奏を参考に、練習用のバックトラックに合わせて繰り返し弾いてほしい。

はじめに 今回は、私がカゲロウで使っているボイスイングについてレクチャーしていきます。練習曲はベースとの関係性を分かりやすくするために、ピアノとベースのみで作りました。どの譜例も音符が多くてびっくりする

かもしれませんが、解説をよく読んでいけばそんなに難しいことが分かるはず。1つ1つの譜例を練習して、私が実践しているような、自由な演奏を楽しんでもらいたいです。最初に演奏前の心得として3つのポイントを紹介していきます。

演奏の前の心得

①不正解の音はない

私は自分が気持ち良いと思う音であれば、基本的に何の音を弾いても間違いじゃないと思っています。この音でなければならぬ、という正解もありません。なので今回紹介する譜面を、すべてこのとおりに弾かなくても大丈夫です。慣れてきたら、自分の気持ち良いと思うボイスイングで演奏してみるのも楽しいと思います。

②ベースの音を聴く

演奏中は、ベースの音を特に確認してください。私としては、ベースと同じ音をルートにしたボイスイングはあまり弾きたくないの、全体のコード感をとらえるためにベースの音を注意深く聴いています。急に意識するのは難しいですから、今回の譜例ではベースはDの音だけだったり、単純な下行/上行フレーズのものを作りました。

③メロディは大切に

右手の和音のトップ・ノートはメロディになることが多く、4と5の指を動かす運動を普段からしておくことが大切です。私はメロディをすごく大切に考えているので、「ビジュナ」という練習曲集を使い続けています。今回の譜例でもトップ・ノートを聴かせるものがあるので、4と5の指の動きを意識してください。